第4号　2013年　春学期

KCJS NEWSLETTER

特集：我が苦い思い出

①リー・ニッソンの場合（ブランダイス大学）

私が日本に初めて来たのは今学期で、これまで本当にたくさん日本の文化的なことを楽しんできました。日本に住むために、日本に来る前日本人の生活のし方を調べました。しかし、アメリカ人にしてみれば時々それは変です。それでたいてい日本の伝統（でんとう）と礼儀（れいぎ）を覚えていますけれど、忘れてしまう場合もあります。

KCJS の学生が、日本の伝統に従（したが）おうとしているのに、忘れてしまった時、それは外人スマッシュという言葉で表わせます。私はホストファミリーに初めて会った時に、外人スマッシュをしてしまって恥ずかしくなりました。

アメリカの日本語の授業で色々な日本の生活の習慣（しゅうかん）を学びました。例えば、食べる前「いただきます」と言うことや食べた後「ごちそうさまでした」と言うことです。しかも日本人は家に入る前に靴（くつ）を脱ぐことになっています。しかし、KCJS のオリエンテーション（はん）の時、アメリカで調べたことと聞いたことに反して、ハートンホテルと他の建物に入る時、靴を全然脱ぐ必要がありませんでした。私は日本で靴を脱ぐという伝統が大事じゃなくなったのかなあと考えました。

オリエンテーションが終わった後、KCJS の学生はハートンホテルのロビーで ホストファミリーに会い始めます。私のパパさんは三番目に来てくれたホストファミリーだったので、ホテルを早く出ました。パパさんと会うことを心配していたので、パパさんと話した時に私は早く話し過ぎたでしょう。でもパパさんは親切でやさしそうでしたから、気楽（きらく）になれました。

ママさんは迎（むか）えに来ないで家で待っていました。そのせいで、もう一度急に心配になりました。

家に着くと全部の荷物（ぜんぶ　にもつ）を持って入りました。そして失礼にならないようにすぐに自己紹介をしました。すべては大丈夫だと考えましたけど、家に入ったとたん、ママさんは殺人事件（さつじんじけん）の被害者（ひがいしゃ）のように「いや」と大声で叫（さけ）びました。つまりブーツをはいたまま、日本の伝統的な家に入ってしまったというわけです。すぐブーツを脱ぎながら、いっしょうけんめい謝（あやま）りました。しかし何回謝（あやま）っても、ホストファミリーに初めて会った時に外人スマッシュをしまったことに変わりはありません。

皆さんは日本の家に入る時、外人スマッシュをしないで、靴を脱いで下さい。よろしくお願いします。

②マルサ･レビツキーの場合（サラローレンス大学）

今日は、私の恥ずかしい思い出についてお話しします。私は中学生のころのことを考え思い出す度に恥ずかしくなる思い出すと恥ずかしくなります。。。というのは私は中学生の時本当に変だったからです。

私は中学生の時、休みの度に友達と一緒に映画を作りました。小さいビデオカメラがありましたからいつも簡単な映画作ることができました。私と友達は子供っぽかったから他愛のない話を作りました。でも、私達にとってその映画はとても真面目ですごいプロジェクトでした!　もっとも、今はちょっと笑えますが。。。ある日私と友達はホラー映画を作ろうとしました。もっとも、私達はどう作るか分かりませんでした。だから、とても簡単な映画を作ろうとしました。今その筋はちょっと思い出せません。でもそれはミイラの映画でした!それで私は友達にミイラの仮装をさせたかったです。でも中学生でしたからすごいミイラを作ることができませんでした!

私が使ったのはたくさんのトイレットペーパーです!　友達の体をトイレットペーパーで包みました。でも、そのトイレットペーパーは緩かったからビデオを作っている間どんどん落ちてしまいました!　だから、家トイレットペーパーだらけになりました。でも、母は易しいから怒りませんでした。その上、私達はサウンドトラックもほしかったんです。でも、コンピュータのプログラムがありませんでしたから、他の案がいりました。そこで、サウンドトラックを作る為にテレビを点けてホラービデオゲームをうつしてボリュームを上げました。

私の家はとてもうるさくなりました!!今考えるとその映画はばかばかしいものでし た。でも中学生の、私達にとってはそのビデオはハリウッド映画と違いがありませんでした。今、その思い出はとても楽しくて変な思い出になっています。たぶん母は影で私 達のことを笑っていたはずです。

子供の時たくさん色々な恥ずかしい映画を作りました。いつも私は友達と変な話を書いてビデオを作りました。私達は本当に真面目な顔をしてばかばかしい映画を作ったから 母が笑うのも無理もないです!　もう中学生じゃないのにまだ母にその映画のことでからかわれています。。。

みなさんもきっと子供の時変なことをしたでしょうね?　それは変でもあり凄く楽しくもあったでしょう。子供は想像力に満ちているからです。。。聞いて下さってありがとうございました!

③マイケル・リーの場合（ボストン大学）

おはようございます。幸せな気持ち。嬉しい気持ち。苦しい気持ち。人は人生において色々なことを感じます。今日は私の苦い思い出についてお話しします。

高校を卒業後日本に旅行しました。私が卒業した代わりに母がどこにでも行かせてくれました。高校の時日本語を勉強しましたから日本を選びました。その旅の時母と兄とおばと一緒に来ました。日本に来ることを考えただけで私は嬉しくなりました。

日本に来た時みんな和食を食べたかったので和風のレストランに行きました。そのレストランの雰囲気は高級でした。レストランの中に滝もあるし鯉もいるし、いい匂いでみんなはぼーっとしていましたがウェイターがテーブルにつれて行ってくれました。メニューを見てすべてがおいしそうだと思いました。その前に東急ハンズという店に行って初めてお好み焼きを食べました。だからこそ今度は違う食べ物を選びました。

注文をして待っていると、テーブルの上に不思議な物を見ました。母が「これは何」と言いました。それでみんなが興味を持ってちゃんと見てみました。その物は黒っぽい石みたいでした。そして、その上に金色のボタンがありました。そのボタンは押すことができました。何のためにその石のような物があるか分かりませんでした。きれいにするためかと思いました。

兄がそれを見て何度も上を押した途端にウェイターが走って来てびっくりしました。ウェイターはパニックのような表情をしていました。「お客さま、大丈夫ですか」と聞きました。その時、その石の機能が分かりました。その石みたいな物はウェイターを呼ぶための物でした。つまり、ボタンを押す度にウェイターが来るというわけです。「すみません」と言いながら、恥ずかしい気持ちでいっぱいでした。兄のせいで恥ずかしかったけど、後でみんなで大笑いしました。

兄がボタンを押す度にウェイターはどんなことを考えたか想像してみました。いくら外人でも「すみません」だけではすまないと思いました。だから私達はその後そのレストランに行きませんでした。その旅では苦い思い出もあれば楽しくて面白い経験もありました。

みなさんもレストランのテーブルにある石のような物に気をつけて下さい。聞いて下さってありがとうございました。

④平田ジュリアの場合（ハーバード大学）

誰にでも苦い思い出があるものです。今日は、私の苦い思い出についてお話しします。

五年前に日本に来た時にした、恥ずかしい経験のおかげで、日本の文化について習えました。郷に入っては郷に従え。日本に来たら、従わなければならないきそくがあります。従わなかったら、恥ずかしい結果になります。

高校二年生の後、夏休みの間に、日本に留学しました。初めて自分で計画した旅行で、日本に来たことがなかったので、わくわくもすれば、こわくもありました。旅行の準備をするために、ガイドブックを読みました。そのガイドブックはたくさん外国人に読まれているらしいです。ガイドブックの中に、温泉について書いてありました。おもしろい考えだと思いました。アメリカではお風呂に入ることは社会的な活動じゃありません。日本では、一口にお風呂と言っても、露天風呂、銭湯のお風呂、旅館のお風呂というように色々です。日本のお風呂の文化は面白そうだと思いました。

日本にいる時に、クラスメートとはこねの旅館に泊まりました。はこねは温泉で有名ですから、みんな温泉を経験したがっていました。そこで旅館に泊まった時に、女の子四人でゆかた

私達はお風呂に着いた時に、おどろきました。皆の女性がはだかだったんです。アメリカ人にしてみれば、他の人の前ではだかになることはちょっと変です。でも、日本人にしてみれば、温泉に行ったら、そうするのは普通です。私はとても恥ずかしくなって、人前ではだかになれるわけがないと考えました。お風呂に入りたかったですけど、はだかになるくらいなら、入らない方がましだと思いました。でも、私の友達に「おくびょう者だよ」と言われましたから入ることに決めました。もっとも、はだかのままでいたくなかったから、タオルを持ってお風呂に行きましたけど。お風呂のドアを開けたとたんに、私はお風呂に入っている女の人にしかられました。そして、女の人に急に私のタオルをつかまれて、私はびっくりしてゆかにたおれてしまいました。みんな私のはだかを見て、部屋はシーンとなりました。すぐにタオルで隠しましたが、その後一ヶ月間は思い出す度に赤くなりました。

今その時のことを思い出した時に恥ずかしくならないで、笑いがこぼれます。その時は、死にたかったですけど、今はその経験を通して良い事を習ったと思います。それは外国に行った時に、新しいことをした方が良いということです。気がすすまなくても、少なくとも一回は何かしてみた方が良いです。私ははだかになって、お風呂に入った後で、温泉が大好きになりました。それで友達といつも温泉に行くようになりました。今は思い出す度に、この恥ずかしい経験をしたことをうれしく思います。聞いてくださってありがとうございました。

⑤照崎ケビンの場合（スワスモア大学）

誰にでも思い出す度に冷や汗が出るような思い出があるものです。今日は私の若い思い出についてお話しします。スワスモア大学ではバレンタインデーの頃だいたい対になったコスチュームを着てブラインドデートをする”Screw Your Roommate”という行事が行われています。つまり、複雑なブラインドデートだというわけです。”Screw Your Roommate”の時に、ルームメイトにブラインドデートをさせるために、皆はよく合いそうな人を探そうとして、相手がいない人のルームメイトに聞いたり、調べたり、連絡したりします。相手が見つかると、相手のルームメイトと相談してどんなコスチュームがいいか決めます。それで、行事が行われる日、ルームメイトに決めたコスチュームを着させて、食堂に行かせます。ミッキーマウスとミニーマウスとか、しおとこしょうとか、ウォリーとイブなどの対になったコスチュームを着ている人がいっぱいいる食堂で自分のパートナーを探さなければなりません。

他の人にしてみれば、こんなブランドデートは楽しみですが、ぼくにとってはブラインドデートをするくらいなら、ひどい死に方をした方がましです。でも、ぼくのルームメイトがせっかく計画してくれたので、参加しないわけにはいきませんでした。しかたなくルームメイトにアシキャチェムというポケモンの主人公のコスチュームを着させられました。

食堂に行った時に、込み過ぎていたからパートナーを探しにくかったです。パートナーを探すのに、時間がかかればかかるほど、パートナーが来ないかもしれないと思うようになりました。でも、ピカチュウのような女の人が現れて、そのとたんに、きんちょうして冷や汗が出て来ました。どうすればいいか、何を言ったらいいかと考えました。私は自然なあいさつをしようとしました。思い切ってピカチュウに対してあいさつをすると、元カノだと気がついてびっくりしました。そして、このブラインドデートはルームメートの悪ふざけだと分かりました。一緒に晩ご飯を食べている間中、私たちは無言で、この気まずい状態からどうすれば逃げられるか、そしてどうやってルームメイトを殺そうかということばかり考えていました。わけのわからない会話をして、早く食べた後で、別々に食堂を出ました。たった三十分だけだったけど、一時間以上の気がしました。寮に帰った後、ルームメート

⑥鈴木ジェイミーの場合（コルビー大学）

私のこれまでの人生において、たくさん照れ臭い思い出があります。でも、一番の照れ臭かったのは私のパンツはがぬげたことです。今までに３回思い出せます。

初めての時は高校の水泳チームの夏のプールパーティーでした。友達と馬跳びをして遊ました。私が飛んだとたんに水着のパンツが脱げてしまいました。つまり、私は水を出たけど水着のパンツは水の中に残ったままだったというわけです。

気がついたとたん、私は顔が赤くなりました。そして、みんなも気がつきました。突然、私は水泳のコーチにも見られたことに気がつきました。私はコーチを驚かせました。友達にしてみれば　とても面白い出来事です。私はばかにされた上に、２週間も友達にからかわれました。この状況について話しをするたびに私が恥ずかしくなるのも無理もないと思いませんか。

２回目の時も高校の水泳チームでした。私の水着は小さ過ぎたから、５００メートルを泳ぐ度に水着が上の方に上がってきました。泳げば泳ぐほど水着が上の方にあがりました。

イベントの後でプールを出なくちゃいけませんでした。出た時に見ている人は私のおしりの一部が見えました。しかも、毎試合５００メートル泳ぎました。そして、試合の度に恥ずかしくなりました。

３回目の時は二ュージャージーで救助員をしていた時でした。毎朝運動しなくちゃいけません。運動は泳ぐかあるいは走ります。ある日水の中で　運動をすることに決めました。海は波が強かったです。でも、私の仕事だから、海に入らwaないわけにはいきませんでした。その時、水着のパンツを結ぶことを忘れてしまいました。

初めの大きい波で私の水着のパンツは脱げてしまいました。早く穿きましたけど、穿く前に他の救助員に見られてしまいました。海を出た時、救助員は全員笑っていました。そして、私も笑いました。　昔はこれらの事件は照れ臭かったですが、今は、面白いと思うようにりました。

俳句･川柳コーナー

青字は編集部評

エジプトも　ベニスの格好　ディズニーシー　勘違いというやつね。
（サラ・アレン　ミシガン大学）

むし暑い　自然美の中　ここで寝る（フィリピンで）南国だねえ。
（ユミ・チョー　バージニア大学）

京都弁　難しいねん　分からへん　既にしゃべってるやろ。
（ローレン・ハーシュ　コロンビア大学）

東京は　期待はずれの　普通町　間違えて埼玉に行ってたんじゃないの？
（アーロン・リー　エモリー大学）

怖くても　速い滑降　風になる（スキー場にて）　詩人だねえ。
（ホワンカルロス・ロザーノ　コーネル大学）

冬休み　地面に雪あり　花みたい　詩人どすなあ。
（ヘンリー・マンテル　ブランダイス大学）

天気になり　家出たいのに　風邪をひく　分かるわ～その気持ち。
（ジェローム・モラスキー　ワシントン大学セントルイス校）

雪遊び　友といっしょに　もう終わり　楽しい時は短し。
（チェルシー・カゼアー　ボストン大学）

雪が降る　古里みたい　帰ったか　古里はもうすぐだ。
（アリソン・リード　ミシガン大学）

木々の葉は　愛といっしょに　落ちるでしょ　何かあったんか？
（サラ・ロンタル　ブランダイス大学）

ミュージカル　高くも安くも　大好きだ　楽しみに、高い安いはないよね。
（メリック・ウィリアムス　サラローレンス大学）

勉強室　右も左も　ふりをする　（KCJS の図書室で）
（キンバリー・ウォン　ボストン大学）　演技力は大切です。

写真：沖縄にて　佐藤コルビー（フランクリンオリン工科大学）

理想と期待

リュー・イ（ブラウン大学）

今はインターンシッを探す期間です。KCJS の友達以外、ブラウン学とシンガポールで勉強している友達も夏休みの予定を決めています。最近、インターンシップを探しながら、二つの要点を理解しました。

一つ目は自分が一番大好きなことと分野を見付けなければならないということです。好きな分野が分からないと、適当なインターンシップを探しにくいと思います。そう言うのはやさしいですけど、現実的に論理よりそういうことをするのは難しいでしょう。人によって、自分が好きなことがわかるかどうか違いますが、特に大学生達はこの問題があると思います。多くの大学生達は自分には世界を変える能力があると思っていますから、将来についていろいろな期待があるかもしれません。だから、自分が好きな仕事を決めても、たくさん別の選択肢が彼らの心の中に残っているでしょう。

二つ目は現実が理想と対立することです。一般的に自信満々な大学生達は、自分の理想的な考え方と価値観を持って、多くの会社や基金に申し込んでいます。でも、理想と現実は二つのところで対立する可能性があると思います。最初は申し込みの結果です。アメリカの大学で、特にブラウン大学で、学生達はとても自由な環境で教育を受けて、いつも出来れば出来るほど、とても優秀にしろ素晴らしいにしろ、賞賛を受けます。時々そういう言葉は適当だけど、使いすぎれば空しいお世辞になるでしょう。だから、時々大学生達は自信を持ち過ぎてインターンシップに申し込んで、失敗すると、とても落ち込みます。その上に、インターンシップをした学生達が現実の仕事に対して、失望する可能性があると思います。皆はインターンシップをする前、その仕事についてうわさや他人の経験といった自分の体験ではない情報を基にして、その仕事に理想的な希望を抱いてしまいます。現実と期待が合わない場合、幻滅して落ち込む可能性があると思います。

だから、何をすればいいでしょうか。僕は、学生たちは広い心を持って、いろいろな方面に手を伸ばして、少しずつ別別な好きな分野で経験を積んだらいいと思います。悪い経験をする可能性があるけれど、失敗から成功の原因が学べるので、特に若い時、間違えてもいいです。大切なのは、自分の感情を抑制出来て、失敗の経験を振り返って、もっと強くなることです。何といっても、「少年よ、大志を抱け！」という名言に従って、皆頑張りましょう。

航空運賃は従量制に

ユーティン・ワン（ボストン大学）

最近燃料価格が上がっているために、アメリカ国内の航空会社では、全部荷物の重量は限られている。普通、一つのチェックインの荷物があったら、その荷物は 50 ポンドに限定されて、それ以上だとチケットの上に 25 ドルぐらい払わなければならない。今、航空業界の平均利潤は非常に低くて、全体としてコストを削減するために乗客が重い荷物を持って来ることを思いとどまらせようとしている。使用する燃料の量は全飛行機の重量に依存しているから、飛行機をもっと軽くすれば、燃料の必要が減るという考えがある。この事業戦略の背後にある理論は理解できるけど、同じ理論によって、乗客の体重と乗客の荷物の重量に応じて追加料金を決めることはもっと有効だと思う。

例えば、服のサイズのような三つの重さのインターバルを作る。まず、一番軽い価格レベルでは乗客と荷物の合計は 200 ポンド以下にする。これは一番安い値段だ。そして、200 ポンド～250 ポンドのレベルの値段は、200 ポンド以下の 20～30%増の追加料金をとる。最後の値段レベルは 250 ポンド～300 ポンドのインターバルで、値段は一番安いのの 50%増の追加料金をとる。もし、300 ポンド以上なら、普通のチケット（一番安い）の２倍を払わせる。もちろん、本当にすれば、このインターバルと値段を作るために、調査や研究をしなければならない。その結果を利用して、アルゴリズムを作って、最適なインターバル値段を決める。以上の例はアメリカ人の平均体重（167 ポンド）に基づいて、インターバルを概算したものだ。

それから、この提案を実施するため、空港のチェックインカウンターに体重計が必要だ。だから、カウンター前にプラットフォームを作って、チェックインする時、乗客がそのプラットフォームの上に立つようにする。プラットフォームの体重計は重量を測って、追加料金の必要があったら、乗客はカードで払ってチェックインができるようにする。チェックインの体制は複雑になるかもしれないけど、このようにすれば、乗客にもっと公平だと思う。その上、会社の収入も増え、両方にとって有益だ。

レイラの映画評

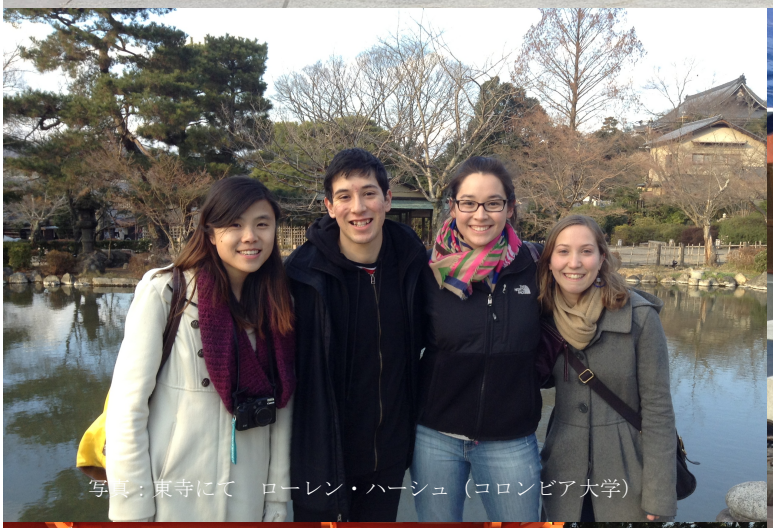
Crossing the Line: 自由と不平等

「Crossing the Line」（2006）は六十年代に北朝鮮に逃れた米兵のジェイムズ・ドレスノックについてのドキュメンタリー映画だ。監督はドレスノックと対談し、ドレスノックを映画のナレーターにした。そして、ドレスノックの声を通じて、私は世の中の不平等を深く理解できるようになった。

ドレスノックを同じ頃に北朝鮮に亡命した米兵は四人だが、この映画が完成した時、ドレスノックしかいなかった。もう亡くなった三人と一緒で、六十年代のドレスノックは貧乏で、高校の落ちこぼれだった。家族も問題だらけだったし、軍隊に入ることはドレスノックが知る限りで一番いい選択で、そうしたドレスノックは韓国に派遣された。しかし、最初の派遣からアメリカに帰った時、婚約者に裏切られたドレスノックは貧乏な落ちこぼれではなく、人気がある映画の俳優と一番いい大学の英語の先生になった。その上で、北朝鮮の政府が色々な利益をあげたので、一般的な北朝鮮人が飢えで死んでいる時にドレスノックは生きていた。

ドレスノックは「北朝鮮にアメリカより自由を感じた」と言っていた。私は彼の感想は宣伝っぽいけど、嘘ではないと思う。アメリカと北朝鮮の硬式の制度、すなわち資本主義と共産主義は違いながらも、両方の本質は階級次第で違うレベルの自由を楽しめるという同じ不平等な社会だ。つまり、亡命した四人がアメリカでお金持ちだとしたら、「北朝鮮に自由を感じた」というはずがない。ドレスノックは北朝鮮の宣伝に便利な道具になったので、社会の中で有利な地位があって、アメリカで一生楽しめない「自由」を得た。ドレスノックは「北朝鮮の政府は私が死ぬまで世話をしてくれる」と言っていた。知的な自由は多分要らないドレスノックの場合は、その状態はいいのではないだろうか。（レイラ・リン　バーナード大学）

写真：コ・イェジン（ウェスレヤン大学）



写真：東寺にて　ローレン・ハーシュ（コロンビア大学）

写真：八坂神社にて　ローレン・ハーシュ（コロンビア大学）

写真：東寺にて　ローレン・ハーシュ（コロンビア大学）

結局この宇宙には厳密に言えば意味はないが、人間が勝手に意味を創り出すからこそ人生は面白い。人生に意味がないと人類は生きていけない。物や人などを大事にすると、失ったらもっと辛い。それは確かにそうだ。然し人間は苦しみも分かるからこそ喜びも理解出来る。仏教は私にとって、哲学としてとても興味深いが、現在では残念ながら非現実的と思えてならない。御釈迦さんはもちろん特別で、欲求やものや人を求める気持ちを完全になくすことは出来るが、私のような普通の人間として無理だと思う。喜びも感じられるなら、たくさん苦しんでも仕様がない。かまわない。それが人生そのものだから。辛い経験をしてこそ、思いやりを持つようになる。

もちろん科学的に自分と相手は結局電子や原子の集まりに過ぎないが、だからといってどうしようもなくて、何もしない方がいいとも限らない。諸行無常と諸行無我と言うのは概念として関心に値するが、口実として利用するべからざることだ。自分が存在しようがするまいが私の人生には関係がない。それより、私は生きたいからこそ自我を作り出す。私はただの人間だから自分の存在を確認しようにも出来ないが、時々自分がなくなっている気がしても、生きていきたい。今この世の物や人との関係をなくしたらもったいないと思う。しっかり生きてから、そしてこの世のことをもっと分かってきてから死ぬ前できるかもしれませんが、とりあえず人間として生きていくべきであると思う。生きている間に楽しんで、そして苦しみながら色んなことが分かってくる。人生に全てをかければ、人生の価値や意味が出てくるかもしれない。よかろうが、悪かろうが私には分からないが、とりあえず生きていくしかない。（ジョー・ラックマン　イェール大学）

諸行無常？

諸法無我？

「自分をなくす」と「自分を探す」は対立事項ではなく、人間が「自分」との関係を理解するプロセスの中の二つの組成部分だと感じる。「諸法無我」の筆者は仏教の中には、「本当の自分」というものがないと述べ、西洋哲学での有名な「我思う。故に我があり」というフレーズに対立しているようだ。また、自我が社会の集団に埋没してしまった人にとっては、「自分をなくす」の考えはおろか、「自分」の存在を大切にすることも理解できないかもしれない。だから、自分を持っていない、つまり、「自分がない」は「自分をなくす」後の「無我」と違う状態である。従って「自分を持っている」というのは「自分をなくす」ための前提条件でもある。このように、「自分探し」などは自分をなくすために準備する方法で、同じ目標を達成する手段の一つかもしれない。

また、人間と「自分」との関係は「ある」と「ない」しかないとは思わない。つまり、この関係を体現しているのは「自分がある」と「無我」しかないわけではない。したがって、「我思う。故に我があり」という表現はただの「自分がある」の証明ではなく、人間は「自分」との関係を思考しているプロセスの体現かもしれない。同様に、「自分探し」と「自分をなくす」はただ「自分がある」や「無我」などの状態に入るための行為ではなく、「自分」との関係を理解する旅の中の二つの手段である。また、「自分探し」と「自分をなくす」は決まった順番で発生するわけではなく、繰り返して発生したり、ほかのプロセスと交替して発生したりするかもしれない。

人間が「自分」との関係を理解するプロセスの中には、「自分をなくす」と「自分を探す」は対立事項ではなく、目標を達成するために相互作用する手段である。「自分がある」や「無我」などの状態に目標として追求する人が大勢のようであるが、そもそも、人間と「自分」の関係を定型すること自体、必要のないことである。（ズー・フェンシェン　アーモスト大学）

僕にとって、諸行無常や諸法無我などの仏教の教えはただの机上の空論ではなくて、日常生活にも人生にも役に立つ教えだと思う。それらの教えについて深く考えれば、自分の考え方も生き方も帰ることができる。どんな宗教でもそれはそうだが、僕は仏教の方がいいと思う。

なぜかと言うと、仏教から得る考え方は簡単で現実的だ。それに、仏教の法則は科学の法則と近い部分が多い。例えば、所行無常は科学の「エントロピー」と言う法則に近い。エントロピーと言うのは、意中の全ての物の形はいつかなくなって、その原子はバラバラになって、他の形になって、うつももっと複雑な形になっている。諸行無常が同じように、世の中のあらゆるものがいつか形を失って、他の形になると言う法則だ。所法無我も科学に正しい。昔のキリスト教の人々は人間の魂が具体的に存在していると考えて、頭の真ん中のどこかにあると信じていた。しかし今日はそんなものは体の中にないと言うことが医学のおかげで明らかになった。諸法無我という仏教の法則が同じように世の中のものがあらゆる実体的な部分がないということだ。

この二つの例から、仏教的な考え方は現実的だということがよく分かると思う。キリスト教などの宗教はよく現実に反対し、科学で証明できることを　熱心に否定するきらいがあるけど、仏教はそんなことをほとんどしない。もちろん、仏教には色々な種類があり、神や奇跡などの現実的ではない話や教えもあるが、基本的な仏教はそうではない。僕は神や奇跡などのことを信じられないので、そんなことを信じなくてもいい宗教がすごいと思う。多くの人にとって、神様がこの世界と宇宙を作ったと言うことを信じればこそ生きるのは意味があり、人生がすごいだと考えるけど、僕の考え方は逆だ。

僕にとって、神がいなくて、こんなに美しくていつも変化している宇宙が偶然に、自然にできたと言うことはもっとすごいと思う。僕はどんなに悲しくて、人生はどんなに苦しくても、僕はいつかなくなり、僕の原子は他の生き物になる。それに、太陽が爆発すると、地球もなくなり、その原子はまた他の星や生き物になる。それは神さまがいなくてもすごいことだと思う。それに仏さまが何千年前に科学なしで諸行無常などの複雑な法則を考えついたことがすごいと思う。（カルム・ガルト　ミシガン大学）

写真：ローレン・ハーシュ（コロンビア大学）

笑いの分析

笑い飯　「奈良県立歴史民族博物館」

まず導入部分で、小学校のときに奈良県の歴史博物館に行ったことに関して話し、お客さんの共感を得る。漫才は歴史博物館の体験が全体的話題で、初めに「人形」、次に「土器」、最後に「感想」という三部分に分かれている。

内容については、博物館のネタは独り善がりなネタではない。お客さんが想像できるもの、または博物館に行ったことがあるので博物館にある事に関する期待を持つものである。従って想定外のネタで客さんに笑わせることが出来た。

なぜ笑えたかと言うと、意外なネタの内容だけでなく、スタンダードな漫才から離れてユニークな期待しなかった漫才であったからである。例えば一つの状況で三回ボケることが普通であるが、土器の状況では１１回ボケて、不思議であればこそ笑えた。またボケのスタイルも不思議であった。

笑い飯がデビューした頃はこのダブルボケが珍しかった。ボケのタイプはちょいズレたことを言うボケに近い。大きい動きでで極めてずれたことを演技しボケた。ツッコミは単にずれたこと指摘することであった。ボケがツッコまれると役割交代があり、そいうダブルボケの仕方でお客さんを笑わせた。（カム・ラウ　ウィリアムズ大学）

NON STYLE　「アルバイト」

「アルバイト」という漫才はアルバイトについて話題を展開する。ボケツッコミパターンは、コンビニのアルバイトを真似ながら、状況によって、ボケ役は色々な面白い対応をする。

この漫才の導入部分はとても自然だと思う。コンビニのアルバイトの状況設定は分かりやすいので、お客さんを引き込める。また、ネタの面白さは大体右肩上がりである。ボケ役の咆哮で、全体の最高潮に達して、最後はちょっと落ちる。こういった漫才の構成も分かりやすい。ボケ役はツッコミ役が真似している状況によって、ネタを展開する。

色々なパターンがあるが、一つのフリで何回もボケることもある。ツッコミ役が扮する状況は全部日常生活で会える状況だから、ネタが分かりやすい。それと同時に、ボケ役が日常の状況に対して自分独自の視点を入れた対応を採用するから、お客さんは展開が読めない。

つまり、彼らはありがちの場合の上に普通の人が想像できない状況を作る。それに、ボケ役の演技力が上手なので、どんな状況もよく模倣できる。彼達は自分の能力がよく分かっていると思う。（ユトン・チョウ　ノートルダム大学）

NON STYLE 「アルバイト」

NON STYLE は漫才のコンビだが、漫才にはちょっとコントっぽいところも入っている。例えば、井上がウィーンと言って手でコンビニの自動扉の演出をしたら、石田は「オペを始めます」と言った。まず、井上が決まった設定で体の動きを使って、お客さんに分かり易く自動扉を演出する。ここで石田はその分かり易いはずの動きを手術するところの医者さんと間違って、ぼける。このネタのコントらしさはコンビニという決まった設定の中で、体の動きを使うことだ。

また、「ちょいズレたことを言うボケ」というパターンが NON STYLE の漫才には入っている。しかし、NON STYLE の場合には、ちょいズレたことを言うのではなく、ちょいズレた行動をする。例えば、万引きした人をちゃんと捕まえてから、石田は携帯電話を出す。ここでお客さんの期待している行動はその携帯電話を使って、警察に電話するということ。しかし、石田は携帯電話で「万引きされたなう」とツイッターし、お客さんの期待を裏切る。簡単に言うと、普通の行動とズレた行動をして、そのギャップでお客さんを笑わせる。

また、「一つのフリで何回もボケる」という法則によって笑いを量産している。例えば、「見た事あるのかい？レジで財布を渡してるやつ」と聞かれた石田は「無いに等しい」と「無かったような気がします」と答える。そして「やる気ある？」と聞かれたら、「無いと言ったら嘘になります」や「あるが優勢です」のフレーズで何回もぼける。はっきりした答えではなく、曖昧な答えを出し、笑いを作る。ポイントは同じ意味の答えを色んなフレーズで表現することだ。当然、こういうネタを作るには単語力表現力も必要だ。（牧嶋清美　ボストン大学）

スリムクラブ 「面接」

スリムクラブの「面接」は大体もの真似が基本なので、漫才よりコントと言った方が適切かもしれない。そして、この沖縄のコンビは標準語で話していて、方言を全然使わなかったので、地方的な言語表現から生まれた笑いは少なかった。

ボケのスタイルは独特である。ボケ役の真栄田は意外性が高い変化球のようなセリフを言った。普通は、このようなセリフは意味がなくて、笑えないことだと思われるかもしれない。けれども、漫才の舞台で、コンピパートナーに真面目にツッコまれると、あの無意味の面白さが逆に出てくる。関西弁で話した漫才ではなくても、関西人がよく使うボケのパターンが表れていた。例えば、基準に足してない「ちょいズレたことをいうボケ」と言葉の「だじゃれボケ」が良く出てくる。

もう一つの特徴は客が漫才師に期待することとのギャップである。例えば、導入部に、真栄田が長い文で聞いた質問は実際に客さんの注意を集める手段である。客さんに注意力をもって聞かせることは後の変化球の笑いで反応をもらうための準備かもしれない。お客さんの最大の注意力を求めることはこのコンビの独自の観点も表していると思う。真栄田の話すスピードは遅ので、全体の笑いが少なかったけれども、毎度独特かつ意外なセリフを使うことで、客さんの反応を得ることがこのコンビ真骨頂である。（ズー・フェンシェン　アーモスト大学）

写真：北野天満宮にて　四倉リンゼー